
[成果情報名] 福岡県におけるモモ新品種「つきあかり」の特性

[要約] モモ新品種「つきあかり」は果皮の地色、果肉ともに黄色で、果肉は溶質、肉質が密で、糖度が高く酸味は少なく食味が優れる。収穫盛期は7月22日頃で「あかつき」と「川中島白桃」の間に収穫できる中生種である。遮光袋を用いた袋掛け栽培を行うことで、果皮が鮮やかな黄色の果実を生産できる。

[キーワード] モモ、品種、つきあかり、黄肉

[担当部署] 豊前分場・果樹チーム

[連絡先] 0930-23-0163

[対象作目] 果樹

[専門項目] 品種選定

[成果分類] 新技術

[背景・ねらい]

モモの果肉色は白色と黄色があるが、栽培品種の多くは白肉であり、黄肉品種の栽培はほとんど無かった。近年、消費者ニーズの多様化が進むなか、「黄金桃」など黄肉品種の栽培が増加し、市場にも流通するようになってきている。モモ新品種「つきあかり」は平成3年に農林水産省果樹試験場（現：独立行政法人農業技術研究機構果樹研究所）において「まさひめ」に「あかつき」を交雑して育成され、食味・品質の優れた中生の黄肉品種として平成20年に出願公表された。そこで、モモ新品種「つきあかり」の福岡県における特性を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 「つきあかり」は果皮の地色が黄色で着色部分が少ない。果肉は黄色で溶質。肉質は密であり食感が良い。糖度は14%程度と「あかつき」や「黄金桃」より高く、酸味が少なく食味は良好である（表1）。
2. 果実重は180g程度で「あかつき」や「黄金桃」よりやや小さい。果形は扁円形で玉揃いは良い。黄肉種特有の香りがある。核は粘核で核割れはない（表1、一部データ略）。
3. 「つきあかり」は樹勢が中程度で、樹姿は開張と直立の間である。花芽の着生が多く、花粉を有し、生理的落果も少なく結実良好である。開花期は「あかつき」や「黄金桃」とほぼ同時期の4月上旬である。果実の収穫期は、7月中旬から7月下旬となり「黄金桃」より約2週間早く、「あかつき」より5日程度遅い（表2）。
4. 遮光袋（遮光率100%）を用いた有袋栽培にすることで、果実重や糖度に影響がなく、果皮の着色を抑え、黄色の果実を生産することができる（表3、図1）。

[成果の活用面・留意点]

1. 中生で黄肉の新品種として、福岡県モモ推奨品種候補に取り上げる。
2. 花芽が多く結実も良好なので、摘蕾・摘果を適切に行い果実肥大を促進する。また、熟度が進むとミツ症の発生が認められるため、適期収穫に努める。
3. せん孔細菌病、灰星病には罹病性であるが、通常の薬剤散布により被害を回避することができる

[具体的データ]

表1 「つきあかり」の福岡県における果実品質（平成16～20年）

品種	果実重	果形	果皮		果肉			糖度	酸味	核割れ	核の粘離
			地色	着色	果肉色	肉質	溶・不溶				
	g							%	pH		
つきあかり	184	偏円	黄	中	黄	密	溶	14.0	4.60	なし	粘
あかつき	225	偏円	緑白	多	白	密	溶	12.5	4.58	少	粘
黄金桃	266	偏円	黄	少	黄	密	溶	13.5	4.48	少	離

注) 樹齢は平成20年で9年生

表2 「つきあかり」の福岡県における特性および生育（平成16～20年）

品種	樹勢	樹姿	花芽の 多少	花粉	生理的 落果	開花盛期	収穫盛期
つきあかり	中	中間	多	有	少	4月4日	7月22日
あかつき	強	中間	多	有	少	4月6日	7月17日
黄金桃	強	やや直立	多	有	少	4月5日	8月8日

注) 樹齢は平成20年で9年生

表3 袋の違いが果実の品質に及ぼす影響（平成20年）

袋の種類	果実重	糖度	着色割合	色差計による果皮色		
				L*	a*	b*
	g	%	%			
遮光袋	161	14.7	0	75.1	2.5	54.1
慣行袋	159	14.6	52	54.1	29.0	33.9
有意性	n.s.	n.s.	-	**	**	**

- 注) 1. **は1%の危険率で有意差あり。n.s.は有意差なし(t検定)
 2. 果皮色は、果実赤道部の着色良好面を色差計(ミルタCR300)で測定
 3. L*: 明暗、a*: 赤緑、b*: 黄青



図1 袋の種類が「つきあかり」の果皮の着色に及ぼす影響

[その他]

研究課題名：モモの品種・系統適応性

予算区分：経常

研究期間：平成20年度（平成16～20年）

研究担当者：石橋正文、栗村光男、野方 仁